

11. 高機能広汎性発達障害児の心の理論改善を目指した小集団作業療法の効果

作業療法学専攻 岩永竜一郎, 土田 玲子
長崎市障害福祉センター 清水 信之
長与町役場 岩下 彩
大阪リハビリテーション専門学校 伊藤 斉子

<研究背景>

広汎性発達障害（PDD）は、対人関係障害、コミュニケーション障害、興味思考の偏りを主症状とする発達障害であり、全人口の1%が同障害であるとされている。

PDD児・者は、他者の信念の理解すなわち心の理論の障害を持つことが指摘されており、これが心理学的中核障害と考えられている。そして、心の理論の障害はPDD児・者の対人関係確立や社会適応を阻害することがわかっている。ところが、これをこれを改善するための治療プログラムは確立されていない。PDD児・者の心の理論の改善のための治療プログラム開発は作業療法領域のみならず、発達障害領域での大きな課題となっている。

<研究目的>

高機能PDD児の心の理論を改善することを目的とした小集団の作業療法（OT）を行い、その治療効果を検討することを目的とする。

<対 象>

次の基準を充たす5名を対象とする。①小児科医、又は精神科医から自閉性障害またはアスペルガー障害、特定不能の広汎性発達障害の診断を受けている、②年齢が7歳～10歳、③知能検査（WISC-III）で全IQが70以上。

<方 法>

研究日程；実験期間を次の3期間に区分する。①OT前コントロール期間7～8日、②OT実施期間14日、③OT後コントロール期間7～8日。

作業療法；治療期間に、作業療法士（第1演者）が治療期間中毎回2時間5名の対象児による小集団OTを行う。OT内容は次の通りである。

- ・相手の考えを推察し、相手に指示を与える課題；目隠し新聞破り（目隠しした相手に方向を教える）など。
- ・相手のだましを見破ったり、相手をだましたりする課題；うそつきはどっち
- ・冗談や皮肉のあるストーリーを演じる課題；4コママンガ劇

- ・相手に分かるように非言語的コミュニケーションを表出する課題；ジェスチャーゲーム
- ・様々な領域に興味を広げる課題；カテゴリークイズ
- ・子ども同士の協力を必要とする運動課題；ポートボール

検査方法；コントロール期間の前後，OT期間前後に検査は第2・3演者が下記検査を行い，保護者には下記のような質問に回答してもらう。検者には治療の有無についてブラインドをかける。また，心の理論の解釈は第4著者が行うこととする。

1) 対象児への検査内容

WISC-III知能検査

TOM心の理論検査

かみしばいテスト（伊藤ら）

2) 保護者への質問

自由記述

小児行動評価（Child Behavior Check List）

<予想される結果>

コントロール期間に比較して，OT実施前後にTOM心の理論検査，かみしばいテスト（伊藤ら）のスコアの改善が認められると考える。

<本研究の意義>

PDD児の心の理論の障害は多くの先行研究で報告されているが，心を理論を改善するための治療教育プログラムは国内外でも確立されていない。そのため，本研究結果は，国内外のPDD児に対するOTなど治療教育・支援の開発に貢献するものと考えられる。

<今後の研究計画>

初年度は，5名を対象に研究を行いOT効果について検討する。次年度も同様の研究を別サンプルで行い，10名程度の対象データが揃ったら，統計解析を用いてコントロール期間と治療期間のスコアの変化差を比較する。